

【第4期 人材育成のグランドデザイン（第3回会合）】

成果把握フレームワークの構築

- 現場の問題を解決する、「質」の高い研修コースを設計する
- 「何がどうよくなるか」、「何がどうよくなったか」を可視化する

●日時● 2019年 1月22日（火） 10:00 ~ 17:00

●会場● 東京・麹町『企業研究会セミナールーム』

■講師 育成グランドデザイン (Human resource Grand Design) 代表 遠藤 裕隆氏
(元富士ゼロックス(株)教育部 シニアコンサルタント)



【講師紹介】 えんどう ひろたか

電気・電子系 CAD システムの開発を経て、2000 年度からソフトウェア技術者の人材育成を担当。主な活動として、事業戦略に直結した人材育成の仕組みを構築するために、「人材育成のグランドデザイン」に取り組むとともに、人材育成プロセスの「e」化実現のために、学習管理システムやスキルアセスメントシステムを自前で開発。2005 年度に e ラーニング大賞(経済産業大臣賞)を受賞。

第3回会合の要点

■伝承の可視化

- ①育成体系図から抽出される「必要能力」からコースを設計する手法
- ②現場の問題を解決する、「質」の高い研修コースを設計する手法
- ③「匠の技」を分析して、保存/活用する手法(ライブラリー化)

■成果の可視化

- ・「何がどうよくなるか」、「何がどうよくなったか」を可視化する手法
- ・知的生産性(増力化)と業務生産性(省力化)の視点で成果を可視化

《詳細は裏面をご覧ください》

●受講料● 1名 (税込み、資料代含む)

正会員	43,200 円	本体価格 40,000 円
一般	46,440 円	本体価格 43,000 円

●正会員の登録の有無など、よくあるご質問 (FAQ) は、当会ホームページでご確認いただけます。

(〔TOP〕→〔公開セミナー〕→〔よくあるご質問〕)

●お申込み後(開催日1週間~10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

●お申込後のキャンセルは原則お受け致しかねますので、ご都合が悪くなった際は、代理出席をお願い致します。

●最少催行人数に満たない場合ほか、諸般の事情により開催を中止させていただく場合もございます。

●FAXでお申込の際、「0(ゼロ)発信のFAX機」をご使用の場合は、必ず「0」を押してから、番号入力をお願い致します。(別番号への誤送信にご注意ください。)

一般社団法人企業研究会

担当：井堀 E-mail ibori@bri.or.jp

〒102-0083

東京都千代田区麹町 5-7-2 MFPR 麹町ビル 2F

TEL 03-5215-3512/FAX 03-5215-0951

■申込方法 ホームページからのお申込が便利です。https://www.bri.or.jp

企業研究会セミナー

検索

*セミナーの最新情報もご覧いただけます。

180193		2019.1.22	
申込書	第4期人材育成のグランドデザイン <第3回会合> 成果把握フレームワークの構築		
会社名	フリガナ		
住所	〒		
TEL		FAX	
ご氏名	フリガナ	所属 役職	
Eメール			

【個人情報の利用目的】お客様の個人情報は、お申込受付後のご連絡やご請求等を行うため、また、ダイレクトメールの発送等、当会主催の各種事業をご案内するために利用させていただきます。

成果把握フレームワークの構築

● プログラム ●

月 日	内 容
1月22日 (火) 10:00— —12:00 昼食・休憩 13:00— —17:00	<p>成果把握フレームワークの構築（成果の可視化）</p> <p>■ 伝承の可視化（問題解決型コース設計手法）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人材育成のグランドデザインの振り返り 2. 教育の問題点の整理 <ul style="list-style-type: none"> ・教育のための教育になっている、・コースの質が低い(役に立たない、つまらない) ・コース設計が属人的、伝承がうまくいっていない ・コースの「質」とは(魅力、効果、効率) 3. 対策と狙い <ul style="list-style-type: none"> ・社員(匠)が簡単に「質」の高い研修コースを設計できる、「問題解決型コース設計手法」を開発 4. 問題解決型コース設計手法の特徴 <ul style="list-style-type: none"> ・インストラクショナル・デザイン(ID)手法と、問題解決手法との融合(いいとこ取り) ・「匠」の行動特性を分析し、効果的な「伝承」を実現 5. 問題解決型コース設計プロセス <ol style="list-style-type: none"> ①コース企画:コース RFP(コース要求仕様書)策定、ニーズ把握、コースの「質」の作りこみ ②コース設計:教育目標設定、テスト設計、タスク分析、コース内外製分析、最適受講形態設定 ③開発: 分かりやすい教材の開発 ④企画/設計/開発レビュー(形成的評価、総括的評価) 6. 事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・ブレンディングコース、アクティブラーニング(反転授業)、問題解決力強化、企画力向上 <p>■ 成果の可視化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 狙い <ul style="list-style-type: none"> ・成果把握フレームワークは、人材育成の「出口」となる部分 ・「何がどうよくなるか、何がどうよくなったか」を可視化して、説明責任を果す手法を学ぶ ⇒人材リスクを抑制、育成の「質」を向上、社員のモチベーション向上 2. 成果把握指標(知的生産性と業務生産性の視点) <ul style="list-style-type: none"> ・動機付け(モチベーション向上)、増力化(スキル/人材強化)、省力化(効率化)、早期育成化 3. 成果把握モデルの紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・カークパトリックの4段階モデル ・V字型成果把握モデル ・成果把握ストーリー ・何がどうよくなるのかを企画(成果企画)、何がどうよくなったのかを把握(成果把握) 4. 成果把握プロセス <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ把握、必要能力分析、成果把握シート策定 5. 事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・コース設計力強化、問題解決「風土化」、企画力強化 6. 演習(テンプレート活用) <ul style="list-style-type: none"> ・コースRFP、ニーズ把握シート、必要能力分析シート、成果把握シート